

沈砂池の凄い能力

福岡導水は、福岡都市圏の9市7町及び佐賀県基山町の水道用原水を導水しています。

水道用原水とは、家庭などの蛇口から出てくる水道水になる前の川や池から取水したままの（濁り、臭い、菌等を取り除いていない）水のことで、福岡導水から導水した水道用原水は、佐賀東部水道企業団の基山浄水場、福岡地区水道企業団の牛頸浄水場で浄水処理され、水道水としての水質基準をクリアして家庭などに給水されています。

ここまでの話では、福岡導水は、筑後川から取水した水を何もしないで浄水場に導水しているだけなの？ そう思われるかもしれませんが、決してそんなことはありません。福岡導水には、筑後川から取水した水の濁り（水が茶色く見える原因の土粒子）を可能な限り取り除くための沈砂池が設置されています。

沈砂池とは、川から取水した水の流れを均等（整流）にして、土粒子を沈降させる（底に沈める）ための池で、福岡導水には、長さ約40m、幅約10m、深さ約10mのコンクリート製で左右2連の沈砂池があります。

平成30年3月と6月、左右それぞれの沈砂池の底に沈んだ土粒子の除去作業を実施したところ（効率的にするため概ね5年間隔で実施しています）、左右合計で約1100m³（10tダンプトラック約200台分）の土粒子が沈んでいました。

言い方を変えれば「水の流れを整えるだけで土粒子を沈めやすくする沈砂池。」それはまるで「ぬるま湯で洗うだけで汚れが落ちやすくなる洗濯物。」に似ているような??? 今回は、地味だけど凄い沈砂池の能力について紹介しました。

平成30年9月 福岡導水管理室 I



除去作業前



除去作業中(吸引車)



除去作業後(清掃実施前)